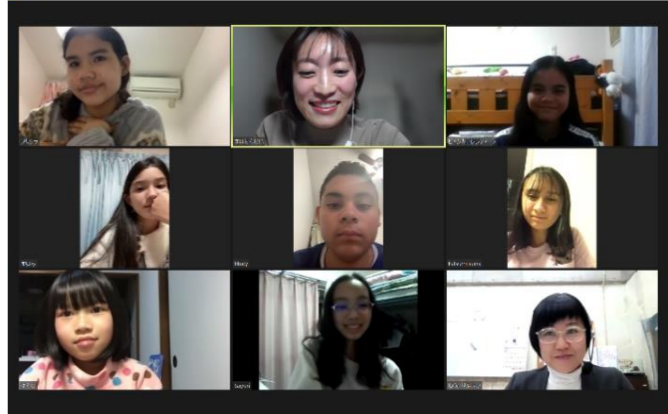


団体名	認定NPO法人プラス・エデュケート	活動タイトル	多文化ティーンズ向けOL日本語会話教室★学校につながるプロジェクト	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■ 活動風景</p>	
<p>● 望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当法人は多様な文化・背景を持つ人材が活躍する持続可能な社会の実現を目指している。そのために、主に外国につながる子どもたちへの日本語教育、就学支援、キャリア教育、国際理解教育などを行って、人材育成に寄与する。また、子どもを教育する人材は、正しい知識と十分な経験に加え、思いやりと愛情、そして使命感を持った人物であることが望ましく、外国につながる子どもたちに関わる人材がやりがいと誇りを持ち、それに見合った待遇が保証されるような社会になることを目指す。</p>		<p align="center">オンライン日本語会話教室 授業風景</p> 	
<p>● 団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>当団体の社会的役割は、多様な文化背景を持つ子どもにも成果を実感できる教育を行うこと、質の高い教育を受けられる環境作りにある。具体的には以下の取り組みを推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国につながる子どもへの日本語および教科学習、就学・進学等に関する支援。 2. 子どもに指導できる日本語教師やその支援者の育成。 3. 地域の方々に多様な文化背景を持つ人たちのことについて知ってもらい、相互理解を深めること。 4. 物理的・地理的な要因による障害を取り除き、教育を受ける機会の確保。 			
<p>● 団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人的資源：①ニーズに合わせ、満足度を得られる日本語教師②ニーズに合わせた教材を作成できる人材③就学支援・キャリア教育ができる人材④他団体と連携して事業を進められるコーディネータ ● 物的資源：オンライン教育環境と内容が充実し、多様なプログラムを構築すること ● 活動資金：自主財源として1500万を確保すること ● 情報：①連携を持つ組織を増やし、情報共有ができるネットワークを構築すること②保護者・卒業生とのつながりを強め、キャリアデザインの一助となること③教師や団体運営のためのマニュアルが充実していること 			
<p align="center">■ 活動報告</p>			<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>● オンライン日本語会話教室：10～18歳の子どもへオンライン日本語会話教室を開催し、週2回20回×2タームの支援を行った。奨学金制度を導入し、母子家庭や貧困家庭の子どもへの支援が可能となった。会話中心の授業で参加者全員が日本語での簡単な質問受け答えができるようになった。</p> <p>● 不就学不登校の子どもへの学習と就学支援：不就学の子ども6名に日本語と基礎教科学習支援を行った。ターム終了時に就学・進学面談を行った。5月に来日した子ども1名が就学できた。2名は進学に向けて学習を続けている。3名は保護者の不法滞在や学習意欲の低下で学習が続けられなかった。</p> <p>● NPO団体等との連携促進：「日本語子ども支援団体リンク（通称：にほこりんく）」を発足し、2月・3月・8月に連携会議で情報交換を行った。その結果、18団体・20名と連携を始めることができた。</p> <p>● 活動基盤強化：週1回以上のSNS発信やニュースレターの発行を行った。見学希望者・新聞社の取材を積極的に受け入れた。寄付者・寄付額が増加した。</p>			<p>● オンライン日本語会話教室</p> <p>①週2回20回×2タームの支援を行った。②日本語での簡単なコミュニケーションが可能となり、学習満足度78%、学習継続率84%となった。</p> <p>● 不就学不登校の子どもへの学習と就学支援</p> <p>①不就学の子ども6名に日本語と基礎教科学習の支援を行い、3名が週2回20回×2タームを修了した。②就学・進路面談を行い、1名が就学できた。2名は他団体で学習を継続している。</p> <p>● NPO団体等との連携促進</p> <p>①「日本語子ども支援団体リンク（通称：にほこりんく）」を発足した。②18団体・20名と連携を始めることができた。</p> <p>● 活動基盤強化</p> <p>①SNS発信に加えて、期間中、見学希望者を対面で10回、オンラインで1回、新聞社の取材を2件受け入れた。②会員数が8名増加し、寄付者21名、寄付金82,800円増加した。</p>	
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>● 子どもの日本語レベルに応じたオンライン授業の教材が蓄積できた。</p> <p>● オンラインでの学習満足度・学習継続率の向上のために、授業内容のブラッシュアップができた。</p> <p>● 未入国の子どもが来日予定の地域の学校や日本語教室などを調べたり、子どものニーズに合った進学先へ問い合わせたりしたことで、就学・進学に関する情報が蓄積できた。</p> <p>● プラス・エデュケートと他団体の支援内容や課題を共有し合ったことで、連携への理解が深まり、課題解決のための方策を知ることができた。</p> <p>● オンライン授業参加者募集のため、マルチリンガルホームページを充実させ、多言語でのHP作成スキルが向上した。</p> <p>● 日々のSNS更新に加えて、YouTubeでの動画公開や多言語での情報発信を行い、編集広告技術が向上した。</p>			<p>当団体のビジョンとミッションの遂行のために、オンラインでの日本語会話教室と就学・進学支援を行った。また、他団体との連携会議を実施したが、課題は以下の点である。</p> <p>● 新型コロナウイルスの影響で、入国がとどめ置かれている子どもたちの就学先の学校や地域の日本語支援についての情報収集や日本に住む不就学・不登校の子どもへの情報収集は当団体だけでは難しい。他団体との連携を一層強化し、広域で支援が行えるよう、不就学・不登校の子どもへの発見→連携→就学へと繋がるシステムを確立させたい。</p> <p>● 奨学金制度を不就学の子どもや過年齢の子どもにも適用し、連携団体からの問い合わせが増加したことはよかったが、何度もやり取りをする必要があり、時間がかかる。その間に連絡が途絶えてしまうことがあった。今後、当団体と連携団体、子ども・保護者間のやり取りをスムーズに行うシステムを構築させ、一人でも多くの子どもへの支援につなげたい。</p> <p>● 不就学・不登校の子どもに直接訴えかける情報や当法人の会員募集などの広報力がまだ十分とは言えず、必要な情報が届いていないことが課題である。</p>	
<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>受講者の日本語会話力のレベルアップと他団体との連携ネットワーク「日本語子ども支援団体リンク（通称：にほこりんく）」を発足したことにより不就学の子どもへの就学支援を達成しました。</p>
<p align="center">■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>● オンライン日本語会話教室に参加した子どもの1タームから2タームへの学習継続率が84%、レッスン修了時の学習満足度は78%となった。</p> <p>● 「日本語子ども支援団体リンク（通称：にほこりんく）」を発足し、18団体・20名と連携でき、情報共有することができた。</p> <p>● 他団体との連携で不就学の子どもへの情報が得られ、支援を行うことができた。</p>	